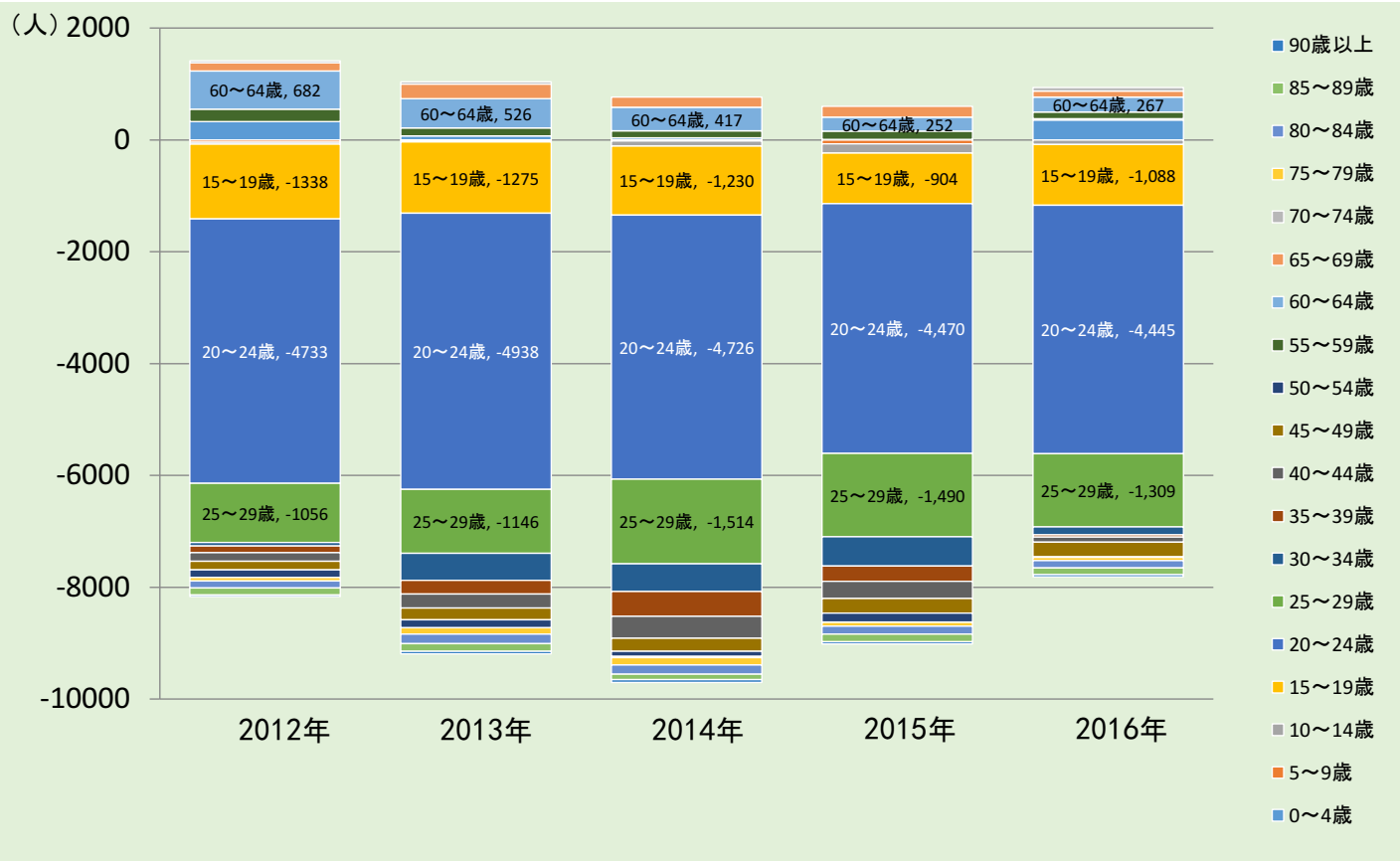
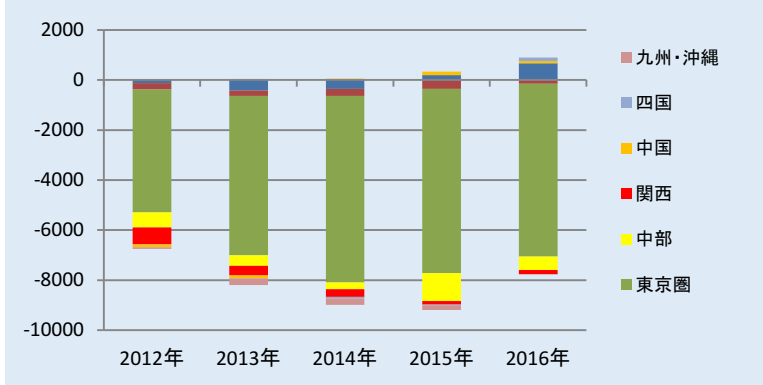


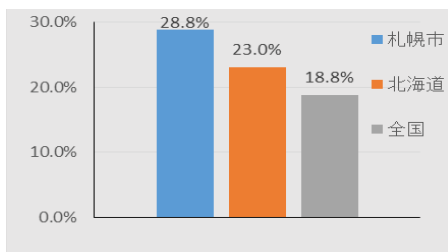
■北海道の年齢階級別人口移動の現況



■地域ブロック別の人口移動の状況(北海道)



■週60時間以上、年間200日以上働く男性雇用者の割合(25～39歳)

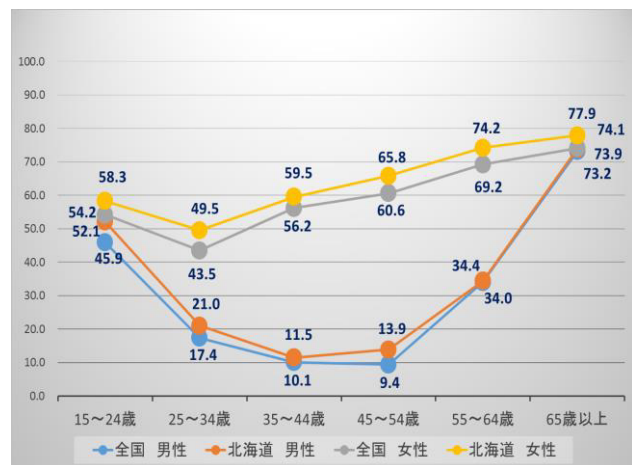


出処: 総務省「平成24年就業構造基本調査」を基に作成

■年間総労働時間数

	北海道	全国
H28 30人以上事業所、時間	2,023	2,006

■男女別、年齢階層別、非正規雇用割合



出処: 総務省「平成24年就業構造基本調査」を基に作成

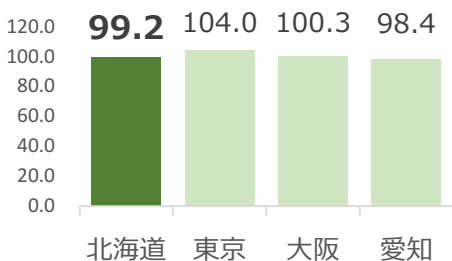
北海道の人口移動の状況を見ると、若年層において転出超過の傾向にあり、15歳から29歳の年代で転出超過数に占める割合の大半を占めている。また、転出先は東京圏が多くを占めている。

若者の労働環境は、非正規雇用の割合が全国に比べ高く、労働時間も全国に比べ長い傾向にある。

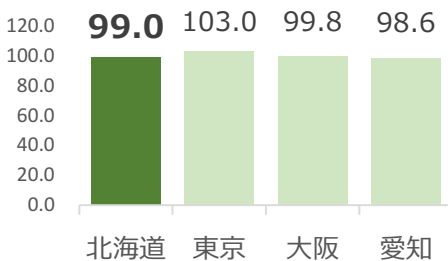
■ワークライフバランス

●消費者物価指数（全国平均 = 100）

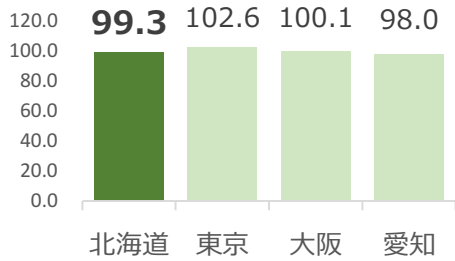
●総合（持家の帰属家賃を除く）



●食料



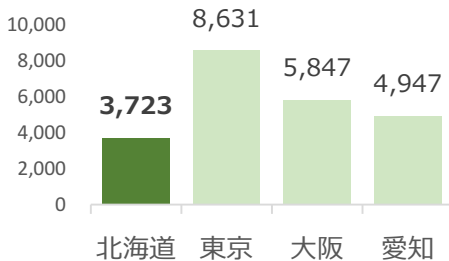
●家具・家事用品



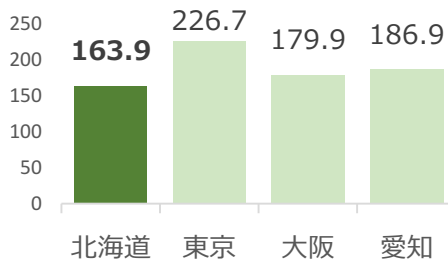
出典：総務省統計局「小売物価統計調査」2015年

●住まいのコスト

●民間賃貸住宅家賃（2015年）
（1ヶ月3.3㎡当たり/円）

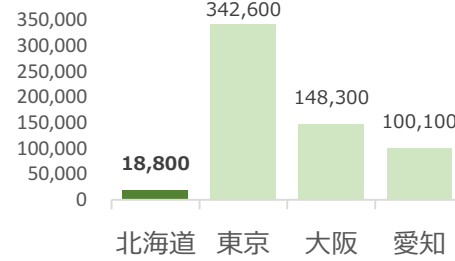


●着工居住用建築物工事費（2014年）
（床面積1㎡当たり/円）



出典：総務省統計局「統計で見る都道府県のすがた」2016年

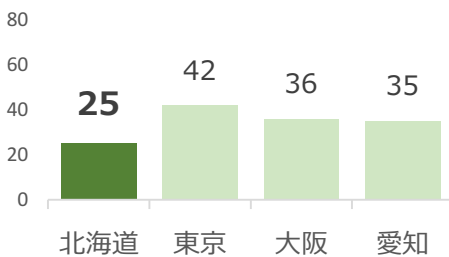
●住宅地の標準平均価格
（1㎡当たり/円）



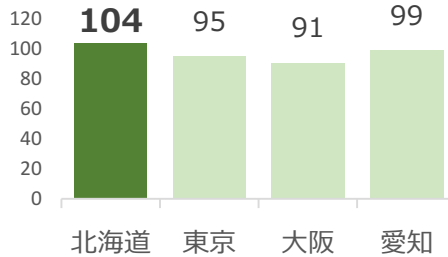
出典：国土交通省「都道府県地価調査」2017年

●行動時間（6歳未満の子どもがいる世帯）

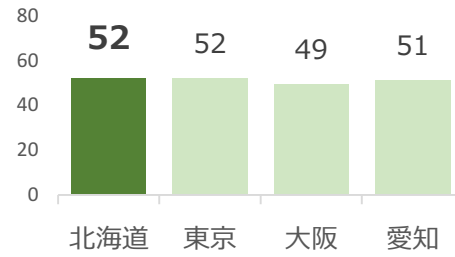
●通勤・通学（分）



●休養・くつろぎ（分）



●趣味・娯楽（分）



出典：総務省統計局「社会生活基本調査」2016年

《北海道における若者の呼び込み・定着の取組》

■ふるさとワーキングホリデー

都市部の若者（大学生等）が一定期間地域に滞在し、働きながら住民との交流などを行う“国内版”ワーキングホリデーを実施

- ・受入期間…平成29年7月～10月（冬季も実施予定）
- ・受入地域…9 振興局管内の16市町村
- ・申込者数…61名、受入者数…40名
- ・受入企業等…23企業・団体（宿泊施設、飲食業、まちおこし、酪農、林業、国際交流など）

都市部の若者等のニーズ

- 通常の旅行では味わえない体験（地域づくりへの参加）がしたい
- 地域との交流を深めたい

ニーズをつなげ
具体化して実施

地域のニーズ

- 交流人口を増やしたい
- 少しでも多く定住してほしい
- 繁忙期に人手がほしい

■道外大学とのU・Iターン就職に関する協力連携協定

- ・高崎経済大学（平成28年11月17日）
- ・中央大学（平成28年11月30日）
- ・東海大学（平成29年1月25日）

■ほっかいどう働き方改革支援センターの設置（H28.12）

■北海道働き方改革推進方策の策定（H29.10）



■首都圏・関西圏の大学で開催される就職相談会への参加、3大都市圏における民間就職説明会への参加

- ・大学就職相談会 20大学参加、相談者数72名（平成28年度実績）
 - ・民間就職説明会 3回（東京2回、大阪1回）
- ブース訪問者122名（平成28年度実績）